

(三) 立教大学文学部日本文学科／文学科日本文学専修設
立六十周年記念国際シンポジウムⅡの開催について

二〇一六年は、立教大学文学部に日本文学科が設立されてから六十周年にあたる年であった。去る六月に開催された日本文学科／日本文学専修設立六十周年記念国際シンポジウムは、石川巧氏が本欄(一)で報告しているように近代・現代文学を中心とした企画であったが、十一月五日(土)・六日(日)には、古典文学部門を中心とした内容として、国際シンポジウムⅡを開催した。当日のプログラムは以下のとおりである。

立教大学文学部日本文学科

／文学科日本文学専修設立六十周年記念国際シンポジウム
「環流／貫流する日本文学——十七世紀の文学圏——」

主催…立教大学文学部日本文学専修
共催…立教大学日文学会

日時…二〇一六年十一月五日(土)

十三時三十分～十七時三十分
六日(日) 九時～十八時三十分
会場…池袋キャンパス八号館八二〇一教室

第一日

開会挨拶・趣旨説明
基調講演

水谷隆之

「後陽成天皇歌壇の展開——十七世紀学芸の始発」

鈴木健一(学習院大学)

講師紹介…水谷隆之

「日韓固有文字の発明と文学——朝鮮通信使の視点」

金鍾徳(韓国外国語大学校)

講師紹介…小嶋菜温子

「仮名草子の時代——アジアへの視座」

渡辺憲司(自由学園最高学部長・立教大学名誉教授)

講師紹介…加藤 睦

挨拶

沖森卓也

第二日

シンポジウム第一セッション

「移行期としての十七世紀——解釈と再編の動態」

司会…鈴木 彰

研究発表

「『徒然草』の流行とその背景

——ポスト中世としての十七世紀」

川平敏文(九州大学)

「イメージとしての〈源平合戦〉と十七世紀社会

——絵入り版本を中心に——」

出口久徳(立教新座中学校・高等学校)

「山海異物の十七世紀」齋藤真麻理(国文学研究資料館)

コメント

原 克昭(立教大学)

マティアス・ハイエク(パリ・デイドロ大学、

国際日本文化研究センター外国人研究員)

シンポジウム第二セッション

「異化される十七世紀——当代の古典」 司会・水谷隆之

研究発表

「幽山『誹枕』の試み」 稲葉有祐(立教大学兼任講師)

「西鶴と『源氏物語』の関係」

ダニエル・ストリユーヴ(パリ・デイドロ大学)

「経済小説の始原としての『本朝二十不孝』『日本永代蔵』」

染谷智幸(茨城キリスト教大学)

コメント

佐伯孝弘(清泉女子大学)

鈴木裕子(駒澤大学)

全体討論

司会・鈴木 彰・水谷隆之

小嶋菜温子

このシンポジウムでは、十七世紀の人や言説・文物・知が、地域や時代や作品をこえて環流／貫流する様相を多角的に掘り起こし、当該期の日本に育まれていた、文学をめぐる環境や状況に光を当てることで、これからの文学研究の可能性を探ろうとするものであった。副題に「十七世紀の文学圏」と掲げたが、それは、古代・中世に生み出された文学が十七世紀にいかなる局面を迎えたのかとか、中国や朝鮮との交流が当該期の日本内外の文学的狀況にどのように作用したのかといった問題を含めて、日本文学のありようを見つめ直そうとする意図を込めたものであった。

講師・コメンテーターには、現在、各分野・領域の研究を牽引

している方々をお招きした。ここでそれぞれの話を紹介するだけの紙幅の余裕はないが、

基調講演・研究発表・

コメントのいずれもがすぐれた問題提起力を備えており、全体討論

に至るまで、密度の濃いやりとりが交わされ

続けた。とくに国際交流という面で、立教大

学の海外協定校である

韓国外国語大学から

金鍾徳教授に、パリ・

デイドロ大学からダニ

エル・ストリユーヴ教

授、マテイアス・ハイ

エク准教授にご参加い

ただいたことで、全体テーマに関する視野が広がり、議論にも興

行き加わったことを特記しておきたい。

最後に、講師・コメンテーター各位に改めて御礼申し上げます。

また、二日間の運営に快く協力してくれた学生・院生のみなさん

にも感謝している。なお、その後、当日の内容をもとにした論集

を編むこととなったことを付言しておく。

(文責・鈴木 彰)